

平成 21 年度 築理会総会懇親会報告

今年も恒例の総会懇親会が「築理会をきっかけに、仲間の輪を広げ母校の発展に寄与しよう」をメインテーマとして、神楽坂校舎 17 階の会議室講堂にて 5 月 24 日(土)に開催されました。



参加者は竹内学長をはじめ教職員の皆さん、現役学生さんを含め 85 名でありました。

総会終了後の講演会は筑波大学大学院教授 稲葉信子先生(I 部 1978 年卒)による「国際社会に於ける文化遺産の保存 世界遺産条約の仕事を中心に」をテーマに行われました。文化遺産と自然遺産それぞれに対する世界遺産条約の関わりについて、多数のスライド写真を使用し講演頂きました。非常に興味深い内容で講演時間が短く感じたとの意見を頂きました。

続いて懇親会会場に場所を移し、竹内学長をはじめご来賓の挨拶を頂き立食パーティーが始まりました。

また今回初めての試みで隣室にて築理会員の活動展示ブースを設けました。ワークショップ「親子で木と触れ合うものづくり」1979 年卒稲垣さん 会員著作の展示販売コーナー ヨット部 OB



の活動 等
会員の活躍
ぶりを披露
でき活気のある
ブースとなり
ました。これか
らこの試
みは発展させ
たいと考

えております。皆様の積極的な参加を期待致します。

一方懇親会場では現役の教職員の皆様から現在の大学の様子などお話し頂きました。その後アトラクションの理科大軽音楽同好会出身のフォークソングバンド MASH☆LIQUOR の演奏をバックグラウンドミュージックとして昔話に花を咲かせる楽しい会となりました。そして恒例の校歌斉唱、記念撮影と続きお開きとなりました。

今回も会
は盛り上が
り充実した
時間を過
ごせまし
が、前回に
比べ会員の
出席が減り
これからの
参加者の確



保について課題を残したと運営委員会としては考えております。内容についても講演会 会員展示ブースなどについて積極的な取り組みをこれからも行う予定です。会員の皆様のご協力を期待しております。
(三輪富成 I 部 8 期)



学生×OB 交流会開催

ホンネで語る

最新建築業界事情



就職活動をひかえた建築学科の学生と築理会OB会員との交流会が行われたのは、11月23日。理大祭の最終日だった。

交流会のテーマは「昨今の建築業界の課題について－これからの建築に求められるもの」。修士1年生の城市滋さんを中心とした「りぼん編集委員会」の学生たちが企画したものだが、実はもう一つ、大きな狙いがあった。

昨年来の不況で、建築業界の就職事情は厳しくなっている。そこで学生たちに建築業界の生の姿を伝えることで、逆風下の就職活動を少しでも後押ししようという趣旨だ。大手の設計事務所、建設会社、小規模な設計事務所、役所、デベロッパーなどから、12人のOB、OGが集まり、学生からの真剣な質問に答えた。

まず「りぼん09」編集委員会のメンバーから、りぼんの進捗状況と、今回の企画の趣旨についての説明があった。東京理科大学工学部建築学科作品集である「りぼん09」は、学生たちが資金集めにも四苦八苦しなから、手作りで編集している。代表の城市滋さんから「12月には発行予定です。築理会の皆さんにもご支援をお願いできればうれしいです」との一言があった。

続いて、集まった12人のOBが順番に「建築の課題とこれから求



修士1年生の城市滋さんが中心となって企画



司会は会報委員会の安達が担当

められること」を、現在の自分の仕事に引き付けて話した。当日集まった卒業生は、年代も仕事内容もバラエティーに富んでいる。年代で言えば、一期卒業生の中村弘道さんから、2006年に修士課程を修了したばかりの高橋こずえさんまで。仕事内容も大手組織設計事務所や環境建築に取り組む塚田敏彦さん(1981年卒)から十数年前に同級生と鋼管杭の専門工事会社を立ち上げ、今では40人の会社を運営する小川ひろしさん(1973年卒)など、築理会OBの活躍するフィールドの広さを示す顔ぶれとなっていた。

経験に裏打ちされたそれぞれの発言も示唆に富むものが多かった。

「私の就職時代は公募ゼロの時代で、なんとかアルバイトに行っていた設計事務所にもぐり込んだら、バブルでもみくちゃになった。当時は大変だったが今から振り返るとそのときの経験が血肉になっている」(イシバシ・スペース・デザイン代表取締役の石橋敦之さん、1981年卒)

「こういったOBと現役学生との交流組織はなかなかない。建築学科のOBは6000人もいるのだから、就職に際してもぜひ生かしたほうがいい」(大岩昭之さん、1968年卒)

「建築をやっている会社よりも、私が建築を専攻して



12人のOB・OGが学生に建築業界の実態を話すべく集まってくれました。参加者は中村弘道さん(設計事務所)、大岩昭之さん(大学OB)、福田義克さん(不動産会社、施工会社)、林孝夫さん(施工会社、役所OB)、石橋利彦さん(設計事務所)、大橋和男さん(施工会社構造設計)、村田茂幸さん(不動産、施工会社)、石神一郎さん(役所OB)、小川ひろしさん(専門工事会社)、石橋敦之さん(設計事務所)、塚田敏彦さん(組織設計事務所・環境建築)、高橋こずえさん(高速道路会社)



まず学生たちが「リボン」について説明

きたことが売りになる会社に就職しようと考えて、電鉄会社を選んだ」(高橋こずえさん) こういった言葉に学生たちも真剣にメモを取る。ひと通り、自己紹介を含めたOBから

の話が終わり、いよいよ学生からの質問に答える。

まず「今、中国がかなり注目されているが、日本より中国で仕事をしたいほうが安定すると思うか？中国の仕事についてどう思うか？」という質問に対して、海外での仕事の経験が豊富な中村さんが答えた。

「中国は大きな可能性がある。他国の若手はどんどん国外に出て行っているのに、日本はバックアップ体制も含めて遅れているのが現状。その中では、海外の仕事が多い設計事務所にもぐり込む方法もある。海外での仕事の実績をもって日本に戻れば、それだけでも差別化できる。いずれにしても英語の読み書きが必要な条件になる」。

「建築は非常にすそ野の広い仕事だと思うが、建築の仕事とはあなたにとって何か？」という、根源的な質問も。これに対してOBは「建築は人に根差したものの。例えばレストランなら、人の呼べるレストランがいい。もう一回、来てみたいと思うものをつくれるか。



OBたちが一人ずつ、現在の仕事内容などを話す。高橋さんは女性の視点からの話を



メモを取る手も力がこもる

どんな空間がどんな人にフィットするか？人の視点があればいい仕事になっていく」(石神さん)、「日本はずっとヨーロッパの囲う建築を目指してきたが、21世紀に入って変

わった。元々日本の建物は屋根と床しかない、区切りのない考え方だったのにそれを忘れてきた。21世紀に入って建築＝環境という考え方に戻った。そこでどんな形態をデザインできるかを考える」(中村さん)などと答えた。

「OBの先輩方が考える、『エコな建築』『環境に優しい建築』とは？」というホットな質問については、「建物の内側をいかに快適にして、外に迷惑をかけないか。数十社が知恵を集めて、温室効果ガスの削減に向けて何ができるかに取り組んでいる」(塚田さん)、「やはり売り物にならないければ浸透しない。そこをどうするかが重要」(福田義克さん、デベロッパー、1968年卒)、「エコや省エネを打ち出せば市場に受け入れられるようになってきた。売らんがため実態を伴っていないものといかに区別するか」(村田茂幸さん、デベロッパー、1970年卒)など、業種による視点の違いなどもあり、議論が盛り上がった。

学生とのやり取りも終盤に差し掛かったところで「就職活動を始め、いろいろな会社の話を聞き始めたが、なかなか正直な話を聞けない印象がある。先輩たちの会社の5年後はどうなっているか。○か×で正直に答えてほしい」という核心を突いた質問も飛び出した。

これに対しては設計事務所、建設会社、デベロッパーなどの業界のOBが率直に見通しを話すとともに以下のようなアドバイスもあった。

「狭い意味での設計だけでは苦勞する。自分もCADやBIMをやっていたので差別化できた。自分がどんな幅をもっていくかが重要」

「建設業では一



会場の製図室が笑いに包まれる場面も



真剣な表情で自らの体験を話す

一番コストがかさむのは人件費。いかに手戻りが生じないようにするか。それが次の仕事につながる」

「将来の見通しをみる場合には、将来的な需要がどうなるかをみておく。相対的に下がっているところを狙う方法もある」

「今の産業界は決して男女平等ではない。とくに女性は就職する前に、なるべく先輩たちの話を聞いて、実態を探ったほうがいい」



アルコールが入った懇親会ではさらに盛り上がる



笑顔を忘れずがんばって!

午後3時から2時間の予定だった交流会は大幅に時間をオーバーして日がとっぷり暮れるまで続いた。そしてそのまま懇親会へと突入。ホンネトークはさらに盛り上がった。

この不況の真っ只中に就職に臨む学生たちは本当に大変だと思う。ただ、人生は長く、社会に出て働く年数は就職活動をしている期間の数十倍も数百倍もある。自分のキャリアについて考える機会を、早く訪れるほうがよい。今回の交流会が少しでもその助けになることを祈りながら、就職活動の本番を迎える3年生、修士1年生たちにエールを送りたい。

(安達功、1986年卒、会報委員会)



最後まで残った人たちで記念撮影

築理会賞の授賞式が行われる

築理会では築理会賞を設け、毎年一部・二部建築学科卒業生の中から、それぞれ学業成績優秀な学生と優れた卒業設計をした学生を表彰している。この賞を通じて、現役と同窓の懸け橋になることを期待していることだ。

3月19日に、この築理会賞の授賞式が行われた。授賞式は卒業式と同時に行い、石神会長が築理会を代表して賞状と副賞を手渡した。2008年度の受賞者は以下の4人だった。



・本年度学業成績が優秀
東京理科大学工学部第I部建築学科 松屋龍喜



・本年度卒業制作が優秀
東京理科大学工学部第I部建築学科 米倉 夏

・本年度学業成績が優秀
東京理科大学工学部第II部建築学科 片桐貴子
・本年度卒業設計が優秀
東京理科大学工学部第II部建築学科 塚越阿希江

建築資料研究社は
建築学生の今、そして未来を応援しています。



LUCHTA

建築系学生のためのフリーペーパー

有名建築家と学生の対談や研究室紹介、卒業設計展特集号など、学生参加型で建築の魅力や役立つ情報を発信しています。

建築系学生のための情報サイト

卒業制作や課題に役立つ各種大会のアーカイブには5,116作品を紹介!! 作品画像18,849点掲載!!
<http://www.luchta.jp/>

日建学院 建設関連資格取得者数 84万人突破!!

日建学院コールセンター ☎0120-243-229

受付 / AM10:00~PM5:00 (土・日・祝祭日は除きます)
株式会社建築資料研究社 東京都豊島区西池袋1-15-7

啓社 建築資料研究社 日建学院

目指せ会費納入率アップ! 作戦会議レポート
 運営安定化委員会委員長 乙丸 勝範 (1部 1971年卒)
 深野 有紀 (1部 2000年卒)

積年の会費不足に悩まされる築理会。この窮状を打破すべく、昨年の暮れに新組織「運営安定化委員会」が設置されました。乙丸委員長との会費納入率改善にむけた作戦会議の様子を深野がレポートします。

深野: 会費の納入率については以前から課題となっているかと思いますが、現在の状況はいかがですか？

乙丸: あまり思わしくありません。築理会では、現役学生との交流を深めるための「りぼん」製作の支援や築理会賞の授与など、活動の幅を少しずつ広げています。こうした築理会の活動経費は大部分を会費の収入で賄っています。しかし、現在の会費の納入状況はというと、10%にも満たない状況です。ちなみに深野さんは何期生ですか？

深野: 35期です。

乙丸: 私の手元にあるヒミツ資料によると…納入率2.3%ですね。

深野: うっ。すみません…お恥ずかしい限りです…。

乙丸: ちなみにお勤めの会社の中にも卒業生がいらっしゃるんじゃないですか。(会員名簿を取り出して)

深野: 本当ですね。そういえば大学時代、就職活動する際に会員名簿で希望する会社のOBを探しましたが、今、改めて見ると会員名簿は会社ごとに会員検索もできて便利ですね。

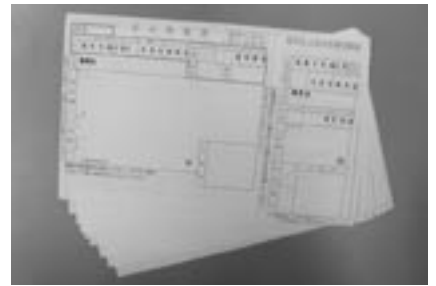
私が会報委員になったのも、会社の上司が会報委員だったのがきっかけですし、同じ会社のつながりというのは、呼びかけとしていいかもしれませんね。

乙丸: 私が以前勤めていたところでは、工学部と理工学部と合わせて数十人が参加する理科大卒業生の会がありました。世代も1期生から若者まで様々ですが、年に2回くらい会合があって、会社の裏話なんかも出て



乙丸委員長と深野

結構盛り上がるんです。卒業生同士というのは、同じ校舎で過ごしたんだと思うと、壁が一枚なくなるというか、親しみがわきますよね。ただ、最近は個人情報保護の関係もあつ



必殺「振込用紙」。深野もたくさんもらってきました

て、会員名簿に掲載するにしても、会社内で卒業生を探すにしても難しくなりましたね。

最近、実は、振込用紙を持ち歩くようにしました。深野さんにもお渡ししますね。会社には卒業生が何人いらっしゃいます？はい、どうぞ。

深野:(振込用紙を受け取って)ありがとうございます(笑)。

乙丸: こうやってお渡しすると、案外すぐに納入してくれる人もいるので、たくさん持ち歩いています(笑)。ほかに、郵送する納入用紙に住所と氏名をあらかじめ印字するように変えたり、地道な努力によって少しずつですが、納入してくれる人が増えてはきています。

深野: 築理会のメリットも、もっとお伝えしたいですね。会員名簿の便利さを伝えるというのはいいかもしれません。ただ、会員名簿は振込用紙のように簡単に持ち歩けないのでCD-ROMで渡すとか。

もともと、みんな建築好きなので、卒業生主催の現場見学会にどんどん参加してもらおうというのもいいですよ。

乙丸: そういう意味では、神楽坂に面して建設される新しい理窓会館ももうすぐ着工しますし、今後、理科大の移転に合わせて神楽坂校舎や金町に予定されている新校舎を見てもらうという機会も出てきますね。

深野: 母校の新旧校舎は、きっとみんな見たいはず。現場を見学してもらって、現場に会員名簿や会報も用意して手に取ってもらって、ついでに会費納入もしてもらおう! 並行して、地道な「振込用紙手渡し運動」でネズミ算式に納入率を増やす。まずは、いただいた振込用紙、早速、会社で「手渡し」してきます!



目に見えない支える技術こそが大切だと考える。

回転費入鋼管杭ジ-・エクス・パイル
G-ECS PILE®

<http://www.sansei-inc.co.jp>

営業品目: 建築工事における基礎杭の開発・販売・施工/建築工事における各種杭の技術提案

※ 技術開発スタッフ募集中

株式会社 三誠 SANSEI INC. 本社 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町20番3号 箱崎公園ビル TEL:03-3639-5226 / FAX:03-3639-8162
 北関東営業所 / 茨城営業所 / 新潟営業所
 (昭和48年 工学部建築学科 代表取締役 三輪富成・専務取締役 小川ひろし 他2名)

新任教員紹介

郷田 桃代 (1部 1988 卒)

工学部第一部建築学科 准教授 (工学博士)

本年4月に工学部第一部建築学科に着任致しました。専門は建築計画・建築設計で、主に建築や都市の空間形態を対象とした研究に取り組んできました。建築単体を設計するという実践的な視点にたつて、地域や都市を再考することを心掛けています。ライフワークになりつつある都市住居の研究では、都市開発とともに失われていく高密度住居を求め、ハノイ、バルセロナ、ソウル、北京、上海、香港と駆けめぐってきました。本学でも、引き続き、若い学生達と一緒に、年齢を顧みず、活動しようと考えています。



今回、母校で教鞭をとる機会に恵まれましたことは大変喜ばしく、また、気の引き締まる思いです。本学の卒業生といえども、学生時代に御指導いただいた先生の多くは既に退職され、校舎も変わりましたが、日々の教育・研究にひとつひとつ丁寧に取り組み、時間とともに少しずつ大学に浸透していけることを願っています。OBの皆様にも気軽に立ち寄っていただけるような研究室づくり、大学づくりを目指したいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

「略歴」

- 1988年 東京理科大学工学部第一部 建築学科卒業
- 1990年 東京大学大学院工学系研究科 建築学専攻 修士課程 修了
- 1992年 東京大学大学院工学系研究科 建築学専攻 博士課程 中退
- 1992年 東京大学生産技術研究所 助手
- 2003年 東京電機大学工学部 建築学科 准教授
- 2009年 東京理科大学工学部第一部 建築学科 准教授

新任教員紹介

伊藤 拓海

工学部第一部建築学科 講師

本年4月に工学部第一部建築学科に着任いたしました。専

門は、建築構造学、鋼構造学で、特に、建築物(主に鉄骨構造)の耐震性能や、新しい性能を志向した設計法に関する研究に取り組んでいます。



近年、人為的被害や自然災害により、建築物が甚大な被害を受けて、莫大な物的・経済的損失を被り、建物の修復や再生、持続的使用可能性について、様々な工学的判断や価値観に基づいて議論すべき時代を迎えようとしています。さらに、建築物を壊さないための設計だけではなく、壊れた後の安全性、いわゆる冗長性を備えた建築物の設計法の導入が検討されています。そこで研究室では、これらの修復性、再生性、冗長性を高めるために建築物が具備しておくべき性能に関する研究課題について、構造実験や解析を用いて考究しています。

講義では、鉄骨構造、構造力学、構造設計法、構造実験に関する科目を担当しています。力学の基礎理論から出発し、構造設計に関わる構造計算を行い、理論と設計との関係を理解して身につける学習計画を立てています。

大学は最先端の学問や技術を学び、課題を見つけて自らの知識を持って解決する総合的な力を身に付ける場所だと考えています。このとき、幅広い経験と豊かな遊び心も解決力の一つの要素と考えています。そこで研究室での諸活動においても、難題に直面したときには、建築学以外の学問も徹底的に勉強し、趣味に興じ、思い切り遊ぶことで、解決の糸口を模索しています。

まだまだ経験不足ですが、精一杯頑張ってまいりたい所存です。皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

「略歴」

- 1999年 東北大学工学部建築学科 卒業
- 2004年 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 修了
- 2004年 東京大学生産技術研究所 研究機関研究員
- 2004年 東京大学大学院工学系研究科 助手
- 2007年 同上 助教
- 2009年 東京理科大学工学部 講師



子どもたちに
誇れる
しごとを。



SHIMIZU CORPORATION
清水建設

新任教員紹介

河野 守
工学部第二部建築学科 教授(工学博士)



本年4月に寺本先生の後任として着任いたしました。専門は建築構造で、特に構造信頼性、構造耐火をベースとして、建築物の安全性能を研究課題として取り組んできました。大学で教育を担当するのは約8年ぶりです。この8年間は国土交通省の研究所(建研及び国総研)で防火基準に関係する課題を中心に研究しておりますが、縁あって本学の教員となり、再び「構造」により軸足を置いた教育・研究を行うことになりました。

講義では、構造力学、構造性能特論(大学院)等を担当しております。学生時代には構造力学系の講座に所属しておりましたが、教員として構造力学の講義を担当するのは実質初めてですので、今一度学生になった気分で勉強直し、新鮮な気持ちで授業を行っております。

建築構造学の目的は、単に構造物の挙動を追って、構造物が損傷または倒壊しないようにすることではなく、建築物が人命を保護し、その機能を完遂することを支援し得る構造性能を実現することと考えております。そのような視点から、わが国においては耐震性能が重要課題であることは論を俟ちませんが、同様に火災時の構造物の状態及びそれによって生じる種々の事象についても研究しなければならない課題が多数あります。このような建築物の総合的安全性を探索する研究室を目指しておりますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

最後に、数少ない趣味のひとつがラグビー観戦です。メッカ秩父宮ラグビー場と九段校舎は至近距離で、秋から冬にかけてこちらもおおいに楽しみたいと思っております。

「略歴」

- 1982年 京都大学工学部建築学科卒業
- 1984年 京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
- 1984年 名古屋大学工学部助手
- 1997年 名古屋大学大学院助教授
- 2001年 国土交通省建築研究所、独立行政法人 建築研究所
- 2004年 国土交通省国土技術政策総合研究所
- 2009年 東京理科大学工学部 着任

平成22年度築理会 新年会(第2回)のご案内

昨年に引き続き今年度も同窓の皆様が気楽に交流できる場として第2回新年会を開催します。デフレのニュースが流れ建築業界にあまりよいニュースがありませんが、こういう時こそ同窓同士結束して、元気の出ることをしようではありませんか。同窓の皆様には何とぞご出席賜りたくご案内申し上げます。

日時 平成22年1月20日(水) 18時~20時
場所 理窓会館3階会議室
東京都新宿区神楽坂2-13-1
参加費 3000円



大盛況だった昨年の新年会 女性の同窓も目立ちました

ご出席の方は、築理会石神一郎宛 FAX03-3400-1164 又は e-mail : shigami@ichiro.name にて「氏名、卒業年次」を1月7日までにお知らせください。(本新年会へは築理会会費納入の有無にかかわらずどなたでも参加できます。)

平成22年度築理会 総会・懇親会のご案内

さて、今年も来年の5月に平成22年度の築理会総会・懇親会を開催することとなりました。昨年同様是非多数の皆様にご参加いただき、旧交を温めていただきたくご案内申し上げます。

日時 平成22年5月22日(土)
会場 神楽坂校舎1号館17F会議室、講堂
会費 会員が参加し易い額を検討中

企画の詳細については春号でご連絡いたします。

総会、懇親会以外に講演会も予定しています。また、築理会員著作による本の紹介と販売、会員の活動の紹介などを予定しています。

ご質問等のある方は上記石神一郎までメール又はFAXで問い合わせをお願いいたします。(築理会会費納入の有無にかかわらずどなたでも参加できます。)

平成20年度
1級建築士
最終試験

合格者
占有率
全国
No.1

全国の合格者の半数以上は、
当学院の平成20年度受講生でした。

全国合格者占有率

57.7%

最終試験合格者
全国4,144名中
当学院平成20年度
受講生 2,391名

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者は一切含まれておりません。

Catch your dream, get the future!

1級・2級建築士

開講講座
宅地建物取引主任者 1級建築施工管理技士
実務講座 木造建築構造設計コース/建築構造計算実践コース

全国に広がる合格ネットワーク 全国63拠点

受験対策書籍出版 — お求めは全国有名書店および当学院ホームページにて

Web

最新試験情報が満載!
資料請求や受講申込も受付中!

いますぐ! ウェブ検索
総合資格 | 検索

当学院ホームページ
www.shikaku.co.jp

総合資格学院 TEL.03-3340-2811

資料請求、お問合せはお気軽に

リレービューマインド(第2回)

リレービューマインドの第2回は、藤森さんからバトンを受け継いだ渡辺一男さん。30有余年の建設会社での仕事を「物づくりの現場を経験したことのあるものの特権の喜びがある」と振り返る。

雑感

渡辺 一男(1部1972年卒)
(株)大林組

還暦を迎えるにあたり、些か小生の歩んできた道のりを振り返ってみたいと思う。

大学時代は某体育会系倶楽部に所属していたものご多分に漏れず、麻雀、パチンコ、ビリヤードに明け暮れ、たまの設計製図提出の時などはよく徹夜で描いたものだった。又、卒論では当時はやりであった住宅公団の大規模団地を数箇所候補に挙げ、プレイロットと呼ばれる遊び場空間等に関しアンケート調査なども織り交ぜて実地検証や考察を行なったものである。しかしこれもこれも今振り返るとあつという間の出来事のように思えてくる。

施工管理分野の専門的知識を十分に身に付けることもなく建設会社に入社し、30有余年様々な建造物を造り続け、20物件以上を数えるに到った。ゼネコンの仕事は概して時と場所を選ばない。北は北海道から南は沖縄まで日本中に建物を造り続けていく。私の場合は山形県に2年半勤務した以外は全ての期間、関東圏での現場勤務であった。

入社4年後、山形県酒田市の今は無き住軽アルミのアルミ電解工場建設の現場で宿舎に泊まり込み、工事を行っていた時、大変な災害が発生した。ご記憶の方もいらっしゃると思うが昭和51年酒田の大火を目の当たりにしたのである。その日は夕方から最大瞬間風速25mの風が吹きまくり現場の作業小屋が吹き飛ばされるほどであった。酒田市内の中心地から出火した火災は、折からの強風にあおられ約1,700棟余りの住戸やビルを焼失させてしまった。当日現場近くで目撃したものは、幅6mの道路を越えて商店や民家に火が燃え移る様であり、また翌日にしたものは正に写真でしか見たことのない東京大空襲の爪跡そのものであった。午後5時過ぎに出火した火災はなんと翌日の午前5時の鎮火まで延々12時間に亘って燃え続けたのである。当社で建てた竣工後1年目の百貨店も完全に焼失してしまった。その時、物を作るには数々の苦勞と幾多の困難が伴うが、災害に依って消え去るときは一瞬でなくなるものだという印象を強く抱いた。

関東での現場勤務では一都六県全てのエリアを経験した。群馬では工場、茨城ではゴルフ場の倶楽部ハウス、栃木では那須の御用邸、都内ではオフィスビル、研究所等々である。建物造りの醍醐味は、何もない更地或いは既存の建物の解体から始まり最後は無事に竣工式を迎えるときに無上の喜びを味わうことができることにあると思う。ビルの建設では地下の工事を1年掛けて行い、地上に出てから更に1年ほどで建物が建ちあがって行く事を何度となく繰り返し、幾多の困難を乗り越えて無事に完成させたときの喜びは、この仕事に携わったもの以外には



平成21年会費納入のお願い

現在、平成21年度の会費の納入をお願いしております。同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費 3,500円

加入者名 築理会

口座番号 郵便局 00110-5-171952

決して味わうことのできない感慨がある。これは物造りの現場を経験した事のあるものの特権であると思う。

さて、最近では時間的余裕も出来、健康のためアウトドアスポーツとして本格的にゴルフを始めた。回数も増えてきたのでより安くプレーする為某コースのメンバーとなり仲間と4名で楽しんでいる。また大人で行うゴルフコンペにも年に数回参加しておりそれはそれでまた楽しいものである。

今年の夏季休暇中、大学時代の仲間6名と千葉のとあるゴルフ場でプレーを楽しんでいた時、とんでもない出来事が私の身に起こってしまった。スタートして間もない3番、ニアピンのかかったショートホールで確実に寄せてニアピンを取ってやろうと力が入り、悪いことにべた足のまま思いっきりスイングしたため右太ももの内転筋をひどく伸ばしてしまい、その激痛のあまりその場に倒れこんでしばらくは起き上がれない程であった。夏休みも終わり出勤する段になっても痛みは取れず、やっと歩いて会社へ向かう状態であったが、その後、全体の医院にて電気治療とマッサージを受けることで最近では漸く歩行も楽になり痛みも大分薄れてきた。次のプレーが出来るようになるまで3週間の経過を待たなければならなかった。こんな目に会うのは全く私だけの事であると思うが、ゴルフやもっと過激な運動量のあるスポーツを楽しまれる同世代の皆さんも年齢を考えて十分注意されたほうが宜しいかと思う。無理は出来ない年齢になってきたなと思うと共に、もっと体を鍛えなければと思うこの頃である。

「編集後記」

11月23日に開催された学生とOBとの交流会は、予定時間を大幅に超えて盛り上がりました。逆風下で就職活動に臨む学生たちも真剣な面持ちでメモを取っていました。今回の交流会が後輩たちの進路決定に少しでも助けになれば、築理会としても喜ばしいことだと思います。段取りをしてくれた「りぼん編集委員会」の皆さん、休日にもかかわらず駆けつけていただいたOB・OGの皆さん、大変、お疲れ様でした。
(安達功 adachi@nikkeibp.co.jp)

築理会報 2009 秋号

2009年12月発行 Vol.44

発行所 : 東京都新宿区神楽坂1-3

東京理科大学工学部I・II部建築学科
築理会事務局 03-3260-4271(内6674)
03-5213-0976(FAX)

編集長 : 安達 功

編集委員 : 石神一郎、大岩昭之、藤森正純、広谷純弘、森清、
伊藤学、渋川克也、山名善之、平賀一浩、菊地宏、
栢木まどか、深野有紀、大槻尚美、野村奈菜子

印刷発送 : グローバルシステム株式会社